

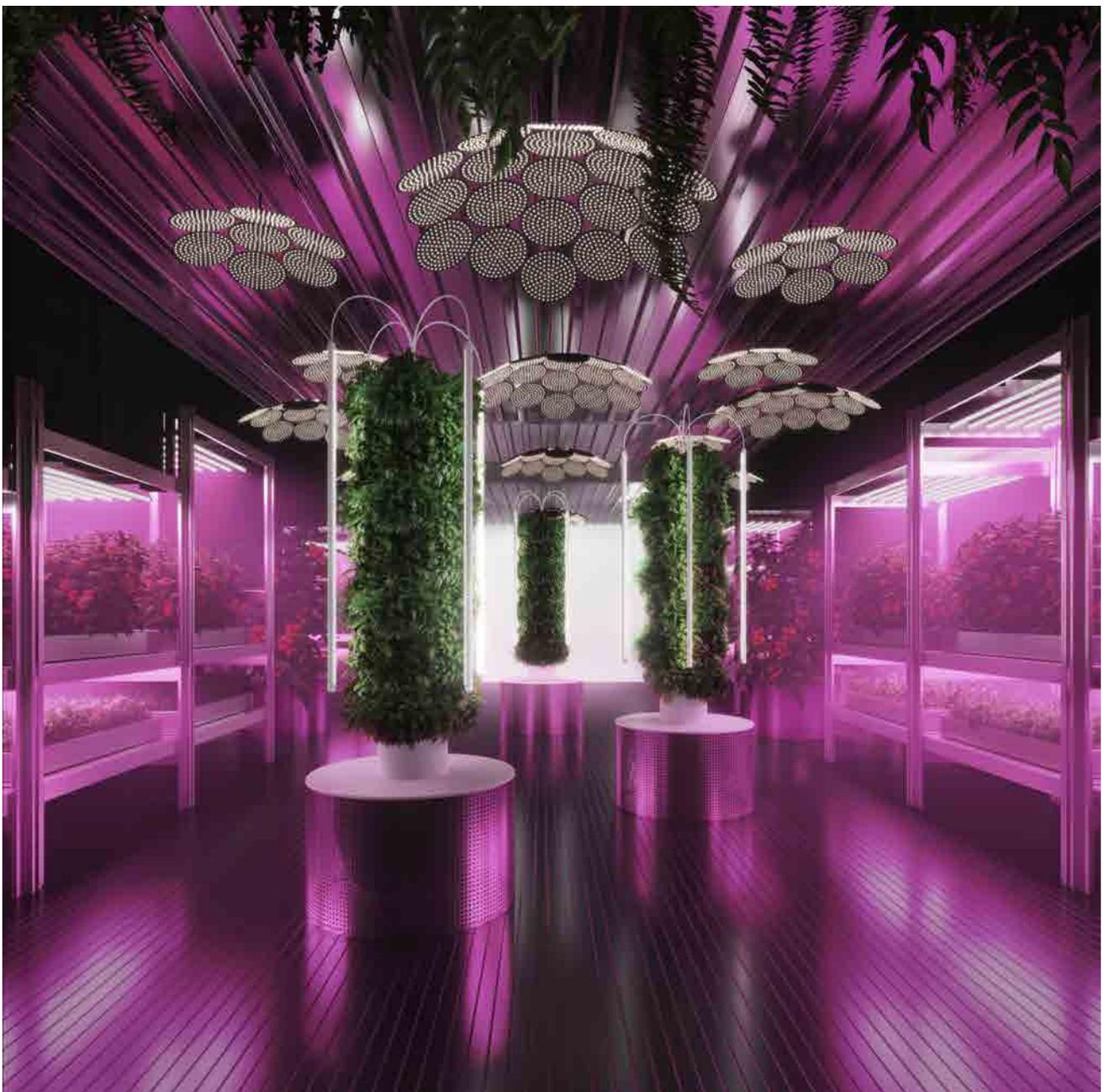


IKEA と TOM DIXONが探求する都市型農業の未来像

チェルシー・フラワー・ショー出展  
「Gardening Will Save The World」

会期. 2019年5月21日（火）～5月25日（土）

会場. Chelsea Flower Show | チェルシー・フラワー・ショー  
ブース No. GPE203





トム・ディクソンとイケアは、イギリスの王立園芸協会が主催する、英国最大級のフラワーショー「チェルシー・フラワー・ショー」にて、「Gardening Will Save The World」のタイトルで出展いたします。

本展示は、トム・ディクソンが主宰する革新的なデザインスタジオ「デザイン・リサーチ・スタジオ」が、自然とテクノロジーを融合し、都市型農業の未来像を示唆します。

また、現代において、代替農業、地産地消、持続可能性などを伴う都市型農業が必要であると捉え、都市型農業における民主的なデザイン原理の汎用性も探っています。

自給自足を行い食料廃棄を減らすこと、古からの知識や最新の生育技術を通じた園芸の素晴らしさや機能性なども、このガーデンを通じ伝えます。ガーデンは2つの層に分かれ、4000を超える植物が栽培されます。

下層は水耕設備が備え付けられた園芸ラボ、上層は芸術的な自然豊かな植物のオアシスで構成され、訪れる人々を魅了します。

会期中、メディア内覧会では、トム・ディクソンが都市型農業をテーマに創作している、植物や野菜を、ご家庭でより手軽に栽培するためのプロトタイプ数点を披露します。本作は、2021年に全世界のイケアで販売を予定しており、本商品は、イケアとトム・ディクソンの間で継続的に進めているコラボレーションの第二弾となります。

「チェルシー・フラワー・ショーの一部として、都市環境の下で植物を育てるための実験的なカタチをデザインし、具現化しました。都市に実り豊かな風景をつくり出すことを目的に、この庭園では、水耕設備や育成照明をベースとした、食用や薬効性のある植物が、自然の大地と人工の大地の上に広がっています。」

Tom Dixon (トム・ディクソン)

チェルシー・フラワー・ショーの後、この庭園は慈善団体「Participatory City」に寄贈され、ロンドン東部のバーキングとダゲナムに移設されます。

庭園の一部はロンドン最大の公設市場「The Warehouse」で再現され、多くの人々が楽しみ、食品の地産地消の重要性を学ぶことができます。

\*「Participatory City」は、多くの人々が健康的な生活を、地元の人々の手によって営めることを目指しています。

「Participatory City」のプロジェクトは、2019年6月25日から4週間、移設先にて行われる予定です。そしてこの庭園はこの地で予定されている復興プロジェクトに先駆けて、3年間の展開を予定しています。

「我々の5年間に渡るプロジェクトが住人の心の中で何もない状態から循環型経済を築き上げる為に個々の力を結集する事を後押しし、ここに再設置される庭園から多くの恵みを受ける事で、この地域に居を構える、あるいは仕事をしている人々に楽しみを与えることになると思っています。」

Participatory City Tessy Britton (テシー・ブリトン)

## 「Tom Dixon」ブランドについて

「Tom Dixon | トム・ディクソン」は、照明、ファニチャー、フレグランス、ホームアクセサリーなど、約600点を展開するデザイナー、トム・ディクソンが主宰するイギリスのインテリアブランドです。2002年のブランドスタート以降、独創的なミラーを使った照明シリーズや、一点モノのアート作品にも近い斬新なプロダクトを数々発表。代表作のひとつである「Sチェア」は、MoMA(ニューヨーク近代美術館)の永久コレクションにも選ばれるなど、世界中のデザイン界で高い人気を集めてきました。また、最近では、商業施設の内装や建築デザインなどのプロジェクトも世界中で進めており2014年には、ロンドンを中心にオープンしたモンドリアン・ホテルの総合デザイン監修を行い、建築デザイン業界においても高い評価を得ました。2015年7月には、「Tom Dixon」ブランドの“日本初”となるオンラインショップをオープン。ウィングバックチェアやビートライトシリーズなどの代表作はもとより、照明、チェアやホームアクセサリーなど、洗練されたプロダクトを販売しています。スタイリッシュな店内もトム・ディクソン自身が空間プロデュースに携わっており、同ブランドの世界感を存分にお楽しみいただける空間となっています。

## Tom Dixon | トム・ディクソン プロフィール

1959年チュニジア生まれ。デザイナー。

2002年に「TOM DIXON Ltd.」を設立。照明、ファニチャー、フレグランス、ホームアクセサリーを展開するイギリスのインテリアブランド「Tom Dixon」をスタート。素材そのものの特徴を生かした独創的な創作手法は、一種異端的、且つ工業的なアプローチを体現するものであり、その表現方法は一見英国的な側面を持ちながらも、奇抜でユニークな部分を兼ね備えています。代表作のウィングバックチェア、ビートライトシリーズなど斬新なプロダクトを生み出し、独自の地位を確立してきました。2000年にはその功績が讃えられ大英勲章を受勲。2014年には欧州のライフスタイル見本市で最大の規模を誇る「MAISON & OBJET (メゾン・エ・オブジェ)」のデザイナー・オブ・ザ・イヤーに選ばれ、また最近では「ELLE DECORATION BRITISH DESIGN AWARD 2019」を受賞するなど、現在ヨーロッパで最も注目されているデザイナーの一人です。

また、空間構築の分野でもトム・ディクソンのデザイン・エッセンスをより高いレベルで表現するために、2002年「Design Research Studio | デザイン・リサーチ・スタジオ」をロンドンに設立。商業施設の内装、大規模装飾物、建築デザイン等のプロジェクトを英国及び世界中で、独創的なデザインを求めるクライアントと共に展開し、その活動領域を拡げています。2014年には、ロンドン中心にオープンしたモンドリアン・ホテルの総合デザイン監修を行い、世界で高い評価を受けています。

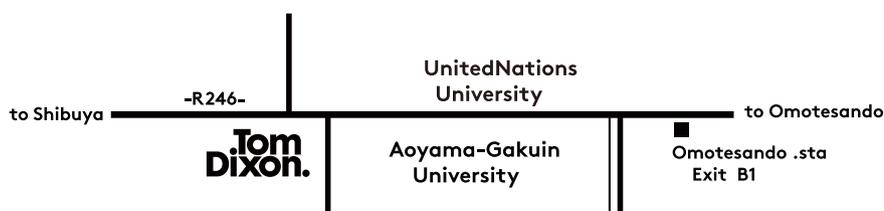


## TOM DIXON SHOP | トム・ディクソン ショップ

Address : 東京都渋谷区渋谷2-1-13 1F

Contact : 03-5778-3282 [info@tomdixon.jp](mailto:info@tomdixon.jp)

Opening Hours : 11:00~19:00 Close : 水曜日 夏季/年末年始



### 商品に関するお問合せ先

TOM DIXON SHOP | トム・ディクソン ショップ Address : 東京都渋谷区渋谷2-1-13 1F

E-MAIL : [info@tomdixon.jp](mailto:info@tomdixon.jp) TEL : 03-5778-3282

### 掲載に関するお問合せ先

TOM DIXON Japan PR OFFICE/HOW INC.

Address : 東京都港区南青山2-22-14 フォンテ青山401

E-MAIL : [tomdixon@how-pr.co.jp](mailto:tomdixon@how-pr.co.jp) TEL : 03-5414-6405 FAX : 03-5414-6406